

たった数年で職場はここまで変わる! **働き方未来図 2014**

NIKKEI BUSINESS

日経ビジネス

働く人1000人が選ぶ
「次」に選ぶべき会社

日経マネー12月号 臨時増刊 2013年11月13日発行発売 第29巻第15号通巻376号
1986年3月3日第三種郵便物認可

職場&働き方 未来予測

職人VSロボット5番対決
「オレの仕事は消えない」

2014

生き様別 ソウハウ術

「組織を生き抜く」「組織にしがみつく」
「組織の外に出る」「組織をあきらめる」

次の10年であなたの
仕事はこれだけ変わる



ちきりん

齋藤孝

藤原和博

3賢者が語る、

ビジネスパーソン
生き残りの処方箋

それをやったら
ブラック企業
今どきの若手の
鍛え方とは?
元部長を使いこなせ!
定年延長パニック
崩れ落ちる「総中流」
あなたは大丈夫?
家計見直しリスト

働き方の新常識



グローバル人材になる

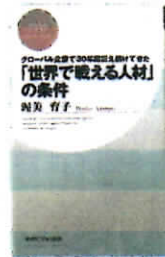
最初に押さえないのが、グローバル化と国際化は違うということ。国際化とは、日本対外国という二元論的な発想で、国内のビジネスを海外に拡張するというスタンスを指す。一方、グローバル化は文字通り「グローバル」地球」単位で世界市場を俯瞰し、日本独自の製品やモデルを世界に向けて投入するという発想だ。

例えば営業であれば、国際化ではとことん努力して身体を張ってターゲット国に売りに行くことが求められるが、グローバル化では頭脳を使って、世界全体で売る仕組みを考える能力が大切になる。世界市場の大競争に勝つには、言うまでもなくグローバルモデルが必要。対応できるグローバル人材になるには、グローバル化とは何かを理解し、発想を転換することが不可欠だ。

世界で戦える人材になる方法

発想の転換が済んだら、グローバル人材になるための具体的な方法に取り組みたい。まずは、「グローバルマインド」を持つこと。世界すべての人に対して差別意識を持たず、対等で平等な存在として受け入れることだ。

世界各国の文化を理解することも重要だろう。世界は4つの文化に大別できる。1つ目がリールガルコード(法的規範)。ルールを中心とした社会であり、主な構成国は米国や英国、北欧諸国など。2つ目がモラルコード(道徳的規範)。人間関係が社会の中心で、日本を含むアジアや南欧、南米、中部アフリカなど。3つ目がレリジヤスコード(宗教的規範)。神の教えを中心とし、中東や北アフリカなど。4つ目



遠美育子 米国で異文化マネジメント研修会社を設立。現在は日本企業のグローバル教育を担う。著書は『世界で戦える人材の条件』など。

が2つ以上のコードが混在するインドなどミックスコードの国々だ。これをベースに、各国の個別文化の理解を深めれば、世界相手のビジネスで役立つ。倫理とリーガルマインドの強化も必要。日本人は、この理解が不足しているため、フェアな競争に違反して毎年多額の罰金を支払っている。法の支配の絶対性を再認識すべきだ。

最後に日本のDNAを磨き、日本型グローバル人材を目指すことも大切だ。作り手の魂を吹き込む発想や、「お客様は神様」というもてなしの心、利他の精神など、日本人の良質な部分は積極的に活用すべきだ。

「グローバル人材＝英語力」という幻想は捨て、真のグローバル人材を目指す一歩を踏み出したい。

【遠美育子・グローバル教育代表者】

